医薬品リスク管理計画
(RMP)

ゼプリオンTRI®による治療を始める あなたとあなたを支える皆様へ

監修 藤田医科大学医学部 精神神経科学講座 教授
岩田 仲生 先生

この冊子は、統合失調症治療薬(ゼプリオンTRI®)について書かれたものです。リカバリー(自己実現)をめざすあなたとあなたを支える皆様～ご家族・ピア(仲間)・治療スタッフ～との対話に役立てていただければ幸いです。

ゼプリオンTRI®について

お薬の投与間隔について

ゼプリオンTRI®※はゼプリオン®(4週間隔筋注製剤)をもとに、効き目の長さを12週間に延ばした注射剤です。12週間に1回の投与で治療を続けていきます。

※ TRIはTwelve-weekly Release Injectionの略

12週間に1回になると・・・

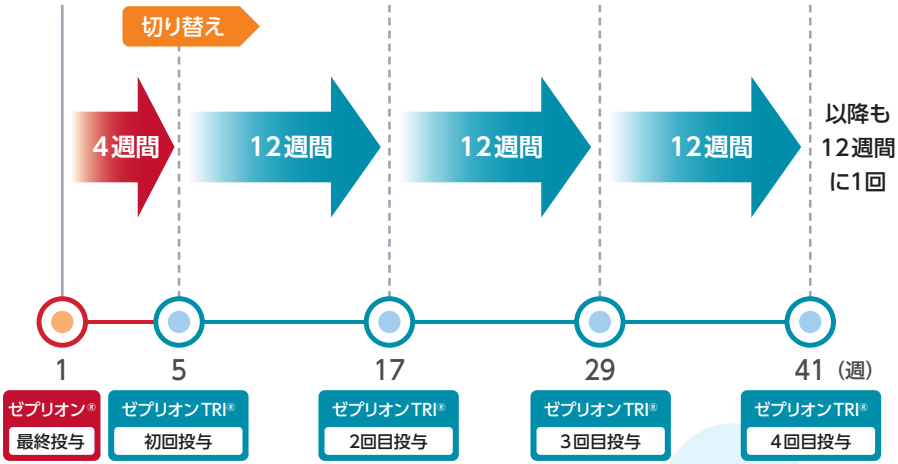
注射の回数が減ります。

心理社会的治療などにより多くの時間を割けます。

一方で、副作用の対応に時間がかかる可能性があります。また、通院する間隔が今までより長くなる可能性がありますので、医師や医療スタッフと相談し、ご自身に合った通院頻度やコンタクト方法(電話やメールなど)を検討していきましょう。

投与スケジュール

ゼプリオンTRI®はゼプリオン®（4週間隔筋注製剤）最終投与の4週間後に1回目の注射を、その後、12週間ごとに注射します。注射をする場所は、お尻付近（臀部筋）と肩（三角筋）のどちらかになります。



※他の抗精神病薬を併用せずに、ゼプリオン®（4週間隔筋注製剤）を4ヵ月以上使用していることが必要となります。

ゼプリオンTRI®投与前の注意点

次のような患者さんには、ゼプリオンTRI®を投与することができません。

1. **昏睡状態の患者さん**
   昏睡状態を悪化させるおそれがあります。

2. **バルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者さん**
   中枢神経抑制作用が増強されることがあります。

3. **アドレナリン（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く）、クロザピンを投与中の患者さん**

4. **本剤の成分、パリペリドンおよびリスペリドンに対し過敏症の既往歴のある患者さん**

5. **中等度から重度の腎機能障害患者さん**
   （クレアチニン・クリアランス50mL/分未満）

次のような場合には、ゼプリオンTRI®を投与する前に必ず医師または薬剤師に相談してください。

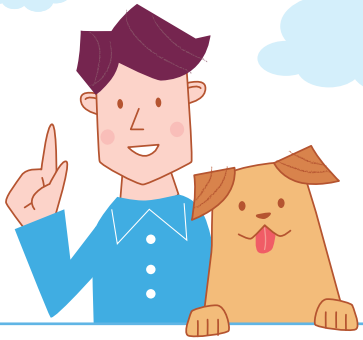
1. 他の病気がある
   （他の薬を服用している、新たに服用する）
2. 薬でアレルギー反応を起こしたことがある
3. 糖尿病の治療を受けている、または以前に受けていた
4. 妊娠している。妊娠しているかもしれない。妊娠を希望する。
5. 白内障（はくないしょう）の手術の予定がある。

ゼプリオンTRI®投与時の注意点

以下にあてはまる患者さんは、医師または薬剤師に相談する必要があります。

合併症・既往歴などのある患者さん

- 心・血管系疾患、低血圧、またはそれらの疑いのある患者さん
- 不整脈の既往歴のある患者さん、先天性QT延長症候群の患者さん
- パーキンソン病またはレビー小体型認知症のある患者さん
- てんかんなどの痙攣性疾患またはこれらの既往歴のある患者さん
- 自殺企図の既往および自殺念慮を有する患者さん
- 糖尿病またはその既往歴のある患者さん、あるいは糖尿病の家族歴、高血糖、肥満などの糖尿病の危険因子を有する患者さん
- 薬物過敏症の患者さん
- 脱水・栄養不良状態などを伴う身体的疲弊のある患者さん
- 身体（筋肉）を動かさずにじっとしている状態、長期にわたる寝たきり状態、肥満、脱水状態などの患者さん



腎機能障害患者さん

- 中等度から重度の腎機能障害患者さん
- 軽度の腎機能障害患者さん

肝機能障害患者さん

妊婦　小児等　高齢者

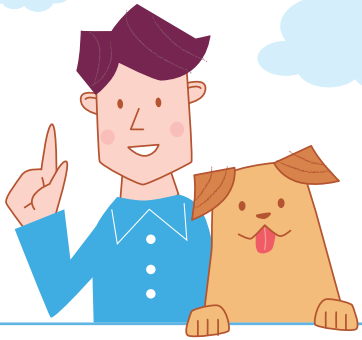
このような患者さんは、必ず、医師または薬剤師に相談してください。

ゼプリオンTRI®投与中の注意点

ゼプリオンTRI®を投与している間は、
次のことに注意してください。

1. 注射した部分をもまないでください。
2. 過度な飲酒はできる限り避けてください。この薬の作用を強めることがあります。

3. 自動車の運転や危険を伴う機械の操作などは避けてください。眠気、注意力や集中力が低下する可能性があります。



4 血糖値が低下することがあります。
脱力感、倦怠感、冷や汗、意識が薄れる、などの症状が現れたら、必ず医師または薬剤師にお伝えください。

5 口渇、多飲、多尿、頻尿などの高血糖症状が現れたら、必ず医師または薬剤師にお伝えください。

6 他の病気で医療機関を受診したり、薬局で薬を購入する場合は、医師または薬剤師にこの薬による治療を受けていることを必ずお伝えください。

※この薬による治療を中止した時も、中止時期にかかわらず治療を受けていたことを必ずお伝えください。

Q&A こんなとき、どうする？

Q 注射をするのが遅れたら？

A 通院日に医療機関に行くことができなかった場合、できるだけ早く医療機関を受診してください。

※投与が遅れた場合の投与量に関する詳細は、主治医に確認してください。

Q いつまで注射は続くの？

A 症状が落ち着いたと感じても、医師による診察に基づき、減量などを検討する必要や、引き続き再発の抑制をするための治療を継続する必要があるので、自己判断で中止せず、必ず主治医にご相談ください。

Q どんな副作用があるの？

A 次のような副作用が現れたら、医師または薬剤師にお伝えください。副作用の詳しい内容については12～13ページをご参照ください。

抗精神病薬治療において比較的よくみられる副作用

- 注射したところが痛い、硬くなる
  （持効性注射剤にみられる副作用）
- 眠れない、眠気
- 興奮しやすい、敵意（てきい）をもつ
- 足がむずむずする、じっと座っていられない

Q 副作用が出た場合、どのように対応すればいいの？

A 症状に応じて下記のような対応があります。

- **対症療法**（たいしょうりょうほう）
  症状を抑えたり和らげるための薬を使います。
- **薬の調整**
  ゼプリオン®に戻す・中止する・違う薬に変更することで、症状を和らげたり、なくしたりします。
- **環境調整**（かんきょうちょうせい）
  食生活や生活習慣を改善することで、症状を改善します。

Q 治療は薬以外にもあるの？

A 薬による治療のほかに、言葉や行動などを通して変化をもたらす治療（心理社会的治療）があります。

- **精神療法・カウンセリング**（せいしんりょうほう）
  医師、臨床心理士や、あなたと同じように治療を受けている仲間であるピアなどの専門スタッフが、あなたの声や相談を聞いてくれます。
- **精神科リハビリテーション**
  作業や訓練を通して、新しいスキルを身につける治療です。

Q 社会生活で困った時、どこに相談すればいいの？

A 統合失調症患者さんやそのご家族をサポートする支援制度や機関があります。14～15ページをご参照ください。

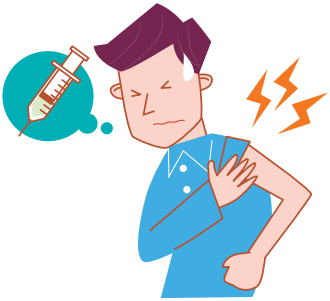
副作用について

考えられる副作用

次のような症状が現れたら医師または薬剤師にお伝えください。

抗精神病薬治療において比較的よくみられる副作用

- 注射を打ったところが痛む、硬くなる
  （持効性注射剤にみられる副作用）



- 眠れない、眠気

- 興奮しやすい、敵意をもつなどの精神症状の悪化

- 足がむずむずする、じっと座っていられない

特に気をつけていただきたい副作用

次のような症状が現れたらできるだけ早く医師または薬剤師にお伝えください。

- 急な高熱・発汗、唾液が増える、ものが飲み込みにくくなる、脈が速くなる、筋肉がこわばる
- 口をとがらせたり、引っ込めたり、舌を出す
- 急におなかが張るような感じ、なかなか治らない便秘とそれに続く腹痛、吐き気
- むくみが伴わない短期間での体重増加
- 発熱、発疹、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる
- 手足のしびれ・痛み、筋肉の痛み、尿の色が赤褐色になる
- 動悸、胸の痛み、胸部の不快感
- 頭痛やめまい
- のどが渇く、水をよく飲む、尿が多く出る
- 脱力感、倦怠感（だるさ）、冷や汗、手がふるえる
- さむけ、のどの痛み
- 息切れ、むくみ
- 性欲に関係なくおこる陰茎の持続するぼっ起
- 不安感、ちくちくした感じ

ゼプリオンTRI®添付文書（11.1重大な副作用）より作成

これ以外でも、何かいつもと違う症状が現れたら、できるだけ早めに医師または薬剤師にお伝えください。

あなたのリカバリー（自己実現）を支える社会資源

暮らしの中の身近な社会資源

統合失調症患者さんの通院や社会参加・社会復帰を支援するさまざまな制度があります。
詳しくは主治医または精神保健福祉士、お住まいの市区町村の福祉担当窓口にご相談ください。

経済的な支援

自立支援医療制度

精神障害をもつ方が通院医療を受ける場合、病院や薬局に支払う費用の一部を自治体などが負担する助成制度です。

社会参加・社会復帰の支援

精神保健福祉センター

地域の人々の心の健康の維持・向上を目指し、精神障害をもつ方の社会参加支援などを総合的に行う行政機関です。

お役立ちツールの紹介

- 投与スケジュールカードを携帯しましょう。
- 医療機関を受診する際は、本カードを医師または薬剤師に提示し、本剤の投与を受けていることを伝えてください。

その他の支援

地域の家族会

同じ病気をもつ患者さんやご家族が集まり、同じ悩みを語り合い、お互いに励まし合い、助け合っています。病院や保健所などを中心に活動しており、全国に約1,600の家族会があります。

精神障害者保健福祉手帳（障害者手帳）

精神障害をもつ方が日常生活や社会生活を行う上で必要なさまざまな福祉サービスを受けるときに提示する手帳です。

お近くで支援してくれるところ

※ここにお近くの支援施設の連絡先をご記入ください

医療機関名・連絡先

ヤンセンファーマ株式会社 / 住友ファーマ株式会社

XET P-40876
TRI-0013
TRI.Pt004.5
2025年6月改訂

©Janssen Pharmaceutical K.K. 2020-2025